

## 平成20~21年度 理事・監事選挙 投票お忘れなく!!

新年度からの協会執行部を決める役員選挙は昨年12月20日に告示され、1月18日に立候補と推薦が締め切られました。翌週、選挙管理特別委員会が開催され、確認の結果、1名の方が立候補し、25名の方が推薦を受けました。そこで同委員会では、直ぐさま推薦候補者に承諾へのお願いをすとも、立候補者の資格審査にあたりました。推薦された方の中には高齢であることや厳しい経営環境で余裕がないなどの理由に固辞される方が多くありました。しかし、同委員会からの再三のお願いにより、最終的に12名の方が理事として立候補されることになりました。また監事候補は、現理事会の承認を得た2名の方が立候補しました。今回の理事候補は前回理事が7名、新人の候補者が5名となり、平均年齢も大分若返りそうな気配です。2月7日には選挙公報と投票用紙が配布され、2月12日からは選挙戦がスタートしています。投票締め切りは2月25日(月)までです。専門の設備設計事務所の業務環境を改善するためには、正会員事務所が結束し対応することが不可欠です。そのため協会の役員を選出する大切な選挙です。投票の資格のあるのは正会員代表名義人とされています。名義人の方でまだ投票用紙の発送が**お済でない方は至急お送りください。**

## 委員会の報告

12月21日発行の「協会だより17号」発行以降の各委員会では次のような活動、審議、報告を行いました。

### <総務委員会>

1. 2008賀詞交歓会の企画と実施
2. 平成20~21年度理事・監事選挙について

### <業務環境改善委員会>

1. 消防設備士試験準備講習会の実施
2. 来年度の事業と予算について

### <環境・技術委員会>

1. 来年度の事業と予算について
2. 公益・事業委員会

1. 開催セミナーの報告と次回セミナーについて
2. 新春ボウリング大会の実施

### 3. 来年度の事業と予算について

#### <広報・情報委員会>

1. 会誌MET6号の編集と発行
2. 協会だより17号と号外版「環境特集」発行
3. HPのリニューアルについて
4. 来年度予算について

#### <賛助会>

1. 賛助会の運営について

#### <選挙管理特別委員会>

1. 理事・監事候補者の確認と承諾のお願い

### ●2008新春賀詞交歓会 開催●

1月23日、ホテルグランドパレスで2008新春賀詞交歓会が、30人のご来賓を含む260余名の方の出席をいただき、盛大に開催されました。明野会長は挨拶で、「本年は設備設計一級建築士の制定と公益法人見直しの元年」と位置づけるとともに、「倫理要綱と業務適正化指針の遂行」に向け力強い決意表明がされました。ご来賓の(社)建築設備技術者協会の牧村会長からは、京都議定書発効の環境元年にあたり「環境問題に貢献できるのは設備技術者である」、建築士法改正で「建築設備士に道が開かれた、一級建築士取得にチャレンジしてほしい」と要望されました。また(社)東京都建築士事務所協会の三栖会長は「建築設備技術者と手を携え共に業界を支えていきたい」との抱負が述べられました。祝宴は原賛助会運営委員長の乾杯の音頭で始まり、バックグラウンドのフルート演奏で終始和やかな内には進み盛り上がりしました。中締めで久住呂副会長は「地球環境の対応には建築設計者と設備設計者のコラボレーションが不可欠」とのお話があり、賀詞交歓会は熱気みなぎる新たな決意を抱きつつ閉会しました。

### ●建築設備関連資格の取得について●

今回の建築士法の一部改正により、「設備設計一級建築士」の資格が創設され、「設備設計」は同資格者が作成したものか、適合性を確認したものでなければ確認申請図書は受理されないことになりました。一方、設備設計一級建築士の資格は、「一級建築士」の枠内に限定されており、機械、電気等を専攻した設備技術者には一段と高いハードルとなりました。しかし、平成19年12月に「一級建築士」の資格を持たない実務経験4年以上の「建築設備士」に二級建築士並みに「一級建築士」の受験資格を与える、また「一級建築士」の資格取得後は建築設備士として前掲の実務経験4年を含め累計5年で「設備設計一級建築士」の講習を受け、資格証を登録申請することで、これに認定されることが明らかになりました。そこで、当協会の明野会長は、正会員事務所の代表者と会員の建築設備技術者それぞれに向け、該当する設備設計に関わる設備技術者は早急に法的資格の取得に努めるよう要請する文書を発信しました。なお、国土交通省は改めて2月7日付の「旧建設省告示990号の一部改正」で「国交相が認める者」として、すでに4年以上の実務経験がある建築設備士は「08年の一級建築士試験から受験可能」になることを伝達しました。

### ●設備設計一級建築士「みなし講習」6月から●

建築士法の改正に伴い創設された設備設計一級建築士は、一級建築士として5年以上(建築設備士として4年を含む)の実務経験後、登録講習機関による講習修了することが義務付けられ、09年6月から運用されます。2月12日 新建築士法の施行を前に実施される、いわゆる「みなし講習」の実施予定が明らかにされました。講習は(財)建築技術普及センターが6月上旬から7月中旬まで全国7都市で実施します。みなし講習は講習3日(各7時間)、審査1日(6時間)の計4日間となっています。東京地区は6月22日(日)~24日(火)と6月29日(日)~7月1日(火)の2回が各1000人の予定で計画されています。また、修了審査は7月13日(日)のみの予定です。なお、受講申込書の頒布と申込受付は、それぞれ4月上旬から同センター各支部で行われ、講義の受付は申し込み受付順で、定員になり次第受付終了とされています。受講資格をお持ちの方は、お忘れなく手続きください。

### ●環境モデル都市を選定●

日刊建設通信新聞(1月30日)によれば、「政府はCO<sub>2</sub>排出量を削減する低炭素社会を目指し、2008年度に『環境モデル都市』を10ヶ所選定し、コンパクトシティ、都市施設などの高効率化、2009年住宅(長期耐用住宅)といった取り組みを支援する。環境モデル都市は、先駆的な環境技術を実践し、持続可能な都市のあり方を探るのが狙い。▽住宅・都市・交通・産業・生活様式などを含む総合的なモデル都市プランの策定▽高度な環境技術の都市での活用、CO<sub>2</sub>排出削減効果の検証——といった取り組みを支援する」としています。

### ●2008年度エネルギー消費は0.2%、CO<sub>2</sub>は1.8%減少見通し●

熱産業経済新聞(1月25日)によれば、「(財)日本エネルギー経済研究所の07~08年の『短期エネルギー需要見通し』によると、07年度の最終エネルギー消費は前年度比0.2%増加。CO<sub>2</sub>の排出量はエネルギー消費の増加、原子力発電の稼働減などにより、同2.4%増となる見込みとされました。また、08年度の最終エネルギー消費は、生産活動が引き続き堅調であるが、省エネの進展や自動車燃料需要の落ち込みなどから前年度比0.2%の減少。CO<sub>2</sub>の排出量についてはエネルギーが増加するものの、原子力発電の稼働増などにより同1.8%の減少と予測している」と伝えています。

### ●ダボス会議 福田首相 温暖化ガス削減 国別総量目標提示●

福田首相は世界経済フォーラム年次総会(ダボス総会)に出席し、7月の北海道洞爺湖サミットの議長国として演説し、地球温暖化防止への2013年以降の枠組み作りに向け、米国や中国、インドなどの主要排出国の参加を促すため、「公平な目標作りに責任を持って取り組む」ことを表明。50年までに世界全体の排出量を半減させるという長期目標「クールアース(美しい星)推進構想」を示し、今後10~20年間で温暖化ガスの排出量を減少に転じる「ピークアウト」を実現するためには、「すべての主要排出国が参加することが不可欠」と強調。日本は主要排出国とともに「国別総量目標」を掲げて取り組むとし、産業・分野別に削減可能量を算定した国ごとに積上げる新基準を提案しました。また、削減の「基準年」については、京都議定書の1990年から見直すことを求めました。さらに20年までにエネルギー効率を30%改善する目標を世界で共有しようと提案し、途上国の温暖化対策を支援するために、5年間で総額100億ドルを提供する「資金メカニズム」の構想を明らかにしました。

### ●京大、学内に「環境税」●

日刊建設通信新聞(1月23日)によれば、「京都大学はCO<sub>2</sub>排出削減を目的に、学内各局を対象にした環境税に当たる『環境賦課金制度』を08年度に導入する。1年間に消費する電力1kw当たり0.5円、ガス1m<sup>3</sup>当たり1.5円、水1m<sup>3</sup>当たり10円を徴収する。08年度は約2.4億円の資金を作り照明や空調などの設備更新に充てる」とユニークな施策を紹介しています。

### ●代替フロン削減 CO<sub>2</sub>冷媒実用化へ●

CO<sub>2</sub>を利用する新たな技術として、日本経済新聞(2月8日)は「強力な温暖化ガスである代替フロンの削減を目指し、CO<sub>2</sub>冷媒を冷凍機や空調機に利用する技術開発が加速してきた。各社は温暖化対策として代替フロンの規制動向などをにらみながら、実用化を目指す。冷媒は熱を運ぶ役目を担う。圧縮機で圧力を加えて温めたり、逆に膨張させて冷めたりして使う。ただ、冷房などの『冷たい熱』を供給するのは苦手で、特に空調機への適用は難しいとされていた。オゾン層を破壊することからフロンの使用が廃止されて、HFCのような代替フロンが空調機や冷凍機の冷媒として使われるようになったが、温暖化への影響が強く規制を求められていた」と紹介しています。

### ●NPO給排水設備研究会 技術懇談会のお知らせ●

標記の技術懇談会が2月21日(木)に(株)INAX ショールーム(イナックスギンザ)で開催されます。今回はテーマとして中央式給湯設備を取り上げます。申込方法等、詳細につきましては当協会ホームページ <http://www.met.gr.jp> をご覧ください。

### ●平成19年度 消防設備士(甲種第1類) 受験準備講習会 実施報告●

2月8日(金)、標記講習会が当協会事務局会議室で開催されました。正会員、賛助会員合わせて8名の方が参加し資格取得を目指し受講しました。

### ●ボウリング大会 実施報告●

2月13日、正会員と賛助会員企業社員の親睦交流として定例のボウリング大会がBIG BOX(高田馬場)に正会員、賛助会員など計84名の参加を得て開催されました。多数賞品が準備され大変盛り上がり多の懇親会になりました。

### ●CADアンケート 報告●

昨年、国土交通省よりCADの利用状況に関するアンケートの依頼があり、この度、調査実施の結果がまとまりました。詳細につきましては当協会ホームページ <http://www.met.gr.jp> に記載しておりますのでご覧ください。

### ◇第19回 定時総会(予算総会)のお知らせ◇

平成20年度の事業計画案と同収支予算案を審議する「第19回 定時総会」が3月28日(金) 16:00~インテリジェントロビー・ルコにて開催されます。多数のご出席を希望します。